

## 祝 辞

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課  
特別支援教育調査官 深草 瑞世

令和3年度第61回九州地区病弱虚弱教育研究連盟研究協議会佐賀大会の開催、誠におめでとうございます。大会の開催にあたりまして、一言お祝いの言葉を申し上げます。

本日、九州地区の病気のある子供の教育に関わる方々が遠隔システムを活用して集まり、病弱教育の充実と発展を図る目的で研究協議が行われることに、心より敬意を表します。

まず、新型コロナウイルス感染症への対応に当たっては、依然として厳しい状況が続いておりますが、感染症対策を徹底しつつ、最大限子供たちの健やかな学びを保障することが重要です。文部科学省としては、感染症対策と子供たちの学びの保障のための取組を両輪として、一層しっかりと進めてまいります。

さて、本年1月には、中央教育審議会において「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」が取りまとめられました。文部科学省としては、本答申を踏まえ、引き続き、インクルーシブ教育システムの理念を構築し、特別支援教育を進展させていくための取組を進めていくこととしています。

具体的には、障害のある子供の就学相談や学びの場の検討等のため平成25年に作成した『教育支援資料』の改訂を行い、本年6月30日に「障害のある子供の教育支援の手引～子供たち一人一人の教育的ニーズを踏まえた学びの充実に向けて～」を公表しました。また、特別支援学校設置基準の策定など、障害のある子供の学びの場の整備や、教師の専門性の向上、ICTの利活用、関係機関との連携強化による切れ目ない支援体制の整備などに取り組んでまいります。

また、令和元年度より、必要に応じて学習者用デジタル教科書を使用できるよう制度化するとともに、令和2年度は、障害のある児童生徒が1人1台端末を効果的に活用できるよう、一人一人に応じた入出力支援装置の整備を支援し、更なる充実を図っているところです。

病弱教育においても医療の進歩、社会情勢の変化により柔軟に対応していくことが求められています。九州地区病弱虚弱教育研究連盟におかれましては、学習指導要領を踏まえて、更なる教育の充実が図られるよう、今後とも格別の御理解と御支援をお願い申し上げます。

本大会では、御参加の皆様が、遠隔システムを活用し、日ごろの実践報告を通して協議を深め情報交換を行うことにより、今後の九州地区の病弱教育の更なる推進となることを期待申し上げますとともに、本大会が今後の病弱教育の実り多いものになるよう願っております。

最後になりましたが、本大会の開催に御尽力いただきました主管校の佐賀県立中原特別支援学校の皆様、運営に関わっていただいております九州地区病弱虚弱教育研究連盟事務局、佐賀県教育委員会の方々に深く感謝を申し上げ、簡単ではございますが、お祝いの言葉といたします。